

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(90)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(90)—

1. 始めに

前報(89)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、今回からスピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も宗教曲です。

エラート REL-3117

モーツアルト ヴェスペレ ハ長調

アヴェ・ヴェルム・コルプス ハ長調

ミサ曲 ハ長調

テオドール・グシュルバウアー指揮ウイーンバロック合奏団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

エラート盤ということで、RIAA、正相、第4時定数Midで聴いていきました。

モーツアルトの宗教曲で、ソリスト、合唱陣、オーケストラの構成です。

合唱の各パートの協和、ソリストの定位とステージ感、弦楽のソフトな響き、通奏低音の明瞭さなどが伝わってきます。

グシュルバウアー指揮ウイーンバロック合奏団は初めてきくものですが、恐らくは古楽器の使用のようで、柔らかい響きの音がしています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E などに加えてスピーカーアキュライザーの総合的な効果として、上記の盤の特徴が把握できました。

以上